

旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会の開催及び基盤整備に向けた検討について（報告）

1 国際園芸博覧会推進事業の取組状況

(1) 2027 国際園芸博覧会推進委員会【全国的な推進組織】

昨年11月に設立された「2027 国際園芸博覧会推進委員会」においては、令和3年度中（秋以降）に予定している博覧会の開催組織（博覧会協会（仮称））の設立準備や、全国的な関係団体とのネットワークを生かした機運醸成等の取組を進めています。

(2) 広報 PR・機運醸成

昨年11月に発表した「2027 横浜 国際園芸博覧会推進ロゴマーク（以下、「推進ロゴマーク」）」等を活用し、広報よこはま1月号への記事掲載、ピンバッジの作成、各種団体及び民間企業に推進ロゴマークの活用を広く促す取組など、広報 PR を図っています。

また、昨年12月には国際園芸博覧会の目的や意義をお知らせするための「有識者インタビュー」を収録し、本市のウェブサイトで公開しています。

<有識者インタビュー>



東京農業大学准教授 福岡 孝則 氏（右側）



株式会社サカタのタネ 代表取締役社長 坂田 宏 氏

<推進ロゴマーク>



(3) 横浜国際園芸博覧会具体化検討会【国の有識者会議】

農林水産省及び国土交通省が設置した「横浜国際園芸博覧会具体化検討会」の第2回が、令和2年12月21日（月）に開催されました。

本市からは、第1回での議論を踏まえ、博覧会の広報戦略となる「コミュニケーション計画」、会場の区域や構成等の「会場計画」、会場までのアクセス等の「輸送計画」などの検討状況を説明しました。

今年度内に開催予定の第3回検討会に向けて、引き続き以下の項目の検討を進めていきます。

<検討項目>

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1. 基本認識 | 2. テーマ・サブテーマ・事業コンセプト |
| 3. 参加方針 | 4. コミュニケーション計画 |
| 6. 展示・行催事計画 | 5. 会場計画 |
| 9. 情報基盤計画 | 7. 会場運営・管理計画 |
| 12. レガシー計画 | 8. 輸送計画 |
| | 10. 組織・資金計画 |
| | 11. リスク管理計画 |

(4) 環境影響評価

国際園芸博覧会の会場計画等を具体化させていくにあたって、横浜市環境影響評価条例に基づき、環境影響評価を実施します。現在、環境影響評価の準備を進めており、令和3年度に環境影響評価配慮書及び方法書の手続きを進めていく予定です。

(5) 国際園芸家協会（AIPH）春会議

令和元年9月にAIPHの開催承認を受けた後、定期的に行われるAIPH博覧会委員会において進捗報告を行っています。

令和3年3月16日（火）にオンラインで開催されるAIPH春会議において、前回（9月）からの進捗として、「2027 国際園芸博覧会推進委員会」の設立、推進ロゴマークによる広報活動、博覧会の検討状況等について、報告を行う予定です。

2 土地区画整理事業（まちづくり）及び新たな交通の導入・周辺道路整備の取組状況

(1) 土地区画整理事業（まちづくり）

個別面談等で地権者の意向確認を行いながら、農業振興ゾーンや観光・賑わいゾーン等の具体的な土地利用について地権者と検討を進めるとともに、都市計画や環境影響評価の手続きを進めています。

令和3年度も引き続き、地権者と個別面談や意見交換等を行い、具体的な土地利用の検討を行います。また、都市計画や環境影響評価の手続きを進めていきます。

<令和2年度の主な取組>

時期	内容
令和2年6月～8月	地権者個別面談（検討状況説明、意向確認）
令和2年8月	環境影響評価方法書説明会（計4回）
令和3年1月～3月	地権者個別面談（検討状況説明、意向確認）
令和3年2月	土地区画整理事業区域の都市計画決定に向けたオンライン説明会 WEB上での動画配信期間：2月5日（金）～2月22日（月）

(2) 新たな交通の導入・周辺道路整備

新たな交通の導入では、令和2年度に実施している測量や地質調査、基本設計などの成果を基に、令和3年度は詳細設計などを行う予定です。都市計画や環境影響評価、軌道法に基づく手続きを引き続き進めていきます。

周辺道路整備（八王子街道の拡幅、瀬谷地内線の整備）では、令和2年度に実施している測量や地質調査などの成果を基に、令和3年度は詳細設計を行うとともに、用地取得などを進める予定です。あわせて、関係機関との協議を行い、都市計画変更など必要な手続きを進めます。

【参考1】横浜国際園芸博覧会具体化検討会

(1) 目的

2021年度、博覧会国際事務局（BIE）に対し、横浜国際園芸博覧会の計画案を日本政府（国）として示し、認定に向けた協議を行う予定です。

農林水産省及び国土交通省は、横浜市が検討している国際園芸博覧会の計画案について、BIEによる認定に向けて充実すべき事項等を検討、助言するため、有識者からなる「横浜国際園芸博覧会具体化検討会」を設置しました。

(2) 委員名簿

(令和2年12月21日時点。氏名 五十音順。敬称略)

氏名	役職等
賀来 宏和	千葉大学大学院園芸学研究科客員教授
岸井 隆幸	日本大学理工学部土木工学科特任教授
北川 フラム	アートディレクター
隈 研吾	東京大学特別教授・名誉教授
柴田 道夫	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
保井 美樹	法政大学現代福祉学部・人間社会研究科教授
横張 真	東京大学大学院工学系研究科教授
涌井 雅之（座長）	東京都市大学特別教授
和田 新也	一般社団法人日本造園建設業協会会長（AIPH日本代表）

【参考2】広報よこはま1月号 記事（市内各世帯 約158万部）

2027年、横浜で国際園芸博覧会を開催します

市では、2015年に米軍から返還された旧上瀬谷通信施設（旭・瀬谷区）において、国際的な園芸文化の普及や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決への貢献を目的とした「国際園芸博覧会」を開催するため、国や関係団体と連携して取組を進めています。

2020年11月には「2027国際園芸博覧会推進委員会」（会長：日本経済団体連合会会長）が設立され、博覧会の開催主体となる組織（博覧会協会〈仮称〉）の設立準備や全国的な機運醸成などを進めています。

博覧会をPRするための「推進ロゴマーク」は、横浜で開催する国際園芸博覧会に、花・緑・農をはじめとした世界の自然、人、文化が集まる様を、花をモチーフに表現しています。詳しくは、ウェブページをご覧ください。



【問合せ】都市整備局国際園芸博覧会推進課 ☎ 671-4627 📠 212-1223

【参考3】令和2年度以降のスケジュール

	国際園芸博覧会 推進事業	土地区画整理事業 （まちづくり）	新たな交通の導入 周辺道路整備
令和 2年度	<ul style="list-style-type: none"> ●開催に向けた会場構想、事業展開、来場者の円滑な輸送アクセス等について検討（通年） ●博覧会協会（仮称）の設立準備や全国的な機運醸成等を目的とする「2027国際園芸博覧会推進委員会」の設立 	<ul style="list-style-type: none"> ●地権者への個別面談等の実施（通年） ●設計・測量・調査の実施（通年） ●環境影響評価法に基づく、環境影響評価方法書の公告・縦覧、説明会の実施 ●都市計画市素案の公告・縦覧、説明会（WEB上での動画配信）の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●設計・測量・調査の実施（通年） ●環境影響評価条例に基づく、環境影響評価方法書の公告・縦覧、説明会の実施
令和 3年度	<ul style="list-style-type: none"> ●開催に向けた事業計画、会場計画、輸送アクセス等について検討（通年） ●博覧会協会（仮称）の設立 ●BIE認定協議 ●環境影響評価条例に基づく、環境影響評価配慮書及び方法書の公告・縦覧、説明会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●地権者との調整（通年） ●設計・測量・調査の実施（通年） ●都市計画案公告・縦覧 ●環境影響評価準備書の公告・縦覧 	<ul style="list-style-type: none"> ●設計・測量・調査の実施（通年） ●用地取得 ●都市計画市素案の公告・縦覧、説明会の実施 ●都市計画案公告・縦覧 ●環境影響評価準備書の公告・縦覧 ●軌道法特許申請
令和 4年度～	<ul style="list-style-type: none"> ●BIE認定申請・承認 ●会場計画・整備、参加招請 ●プレイベントなど 	<ul style="list-style-type: none"> ●地権者との調整（通年） ●都市計画決定 ●事業計画決定 ●工事実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●都市計画決定 ●軌道法工事施行認可申請 ●用地取得 ●工事実施
令和9年 3月	国際園芸博覧会の開催		